

## 所報発刊にあたって

田川郡教育研究所 所長 長 野 修

所報の発刊にあたり、ご挨拶を申し上げます。皆様のご支援とご協力により、完成にいたることができましたことを心から感謝申し上げます。

新型コロナウイルスが5類相当に引き下げられ対面での研修会等が行われるようになってきました。先日は当研究所の総会を対面で行いましたが、その際に令和4年度の田川郡教育論文の表彰式を行うことができました。自分の実践を振り返りまとめた成果を発揮することができた充実感が感じられました。対面で行われた表彰式は単なる賞を受ける場でなく研究のエネルギーと情熱が集まる場でもあると実感しました。対面ならではのことと思います。ご参加ありがとうございました。

さて、中央教育審議会答申で示された「令和の日本型学校教育」では、子どもの～個別最適な学びと、協働的な学びの実現～ということが書かれています。今年度は、筑豊地区教育研究所等連絡協議会の実践発表会にて、講演いただく福岡教育大学鈴木教授がテーマにされている「協働的な学び」にも通じる内容と思われます。この所報でも実践発表会について紹介していますので是非ご参加いただけると幸いです。

今年度は、教科等部会も行われ、研究も本格化していくことと思います。内容等につきましても後日紹介していきたいと思えます。

結びに、当教育研究所では、今後とも学校や先生方が直面している教育課題の解決に向けて各事業を通じて貢献していく所存です。田川郡の教師が智慧を結集させて令和の田川郡教育を作っていくように頑張りましょう。どうぞ今後とも研究所へのご支援・ご協力をお願いいたします。

## 就任の挨拶

田川郡教育研究所 副所長兼書記

添田町立落合小学校 校長 長 畑 理 恵

本年度、副所長を拝命いたしました落合小学校の長畑です。微力ではありますが、今までの経験を活かし、田川郡の教育発展並びに人材育成のために、一生懸命に努めさせていただきたいと思えます。新型コロナウイルスが5類に引き下げられたこともあり、新たな学校運営の展開が必要になってきました。そこで、児童生徒の健全育成、教職員の育成のために研究所の果たすべき役割を見直す良い機会であると考えています。本年度もご支援・ご協力をお願いいたします。

## 就任の挨拶

田川郡教育研究所 副所長兼幹事

福智町立赤池中学校 校長 春永 功次郎

コロナが5類相当に位置づけられ今後、各学校の教育活動が充実してくるものと思えます。単にコロナ前に戻すのではなく、生徒指導提要が改定され、ICTの普及やコロナ禍で培った経験をもとに新しい教育活動が各学校で展開されることを期待します。このような心ワクワクする年に昨年度に引き続き副所長を拝命させていただきました。田川郡の子ども達の輝きのため微力ながら精一杯支援させていただきます。



## 柱2 習熟度別学習

### ○ 数学における習熟度別補充学習

- ・習熟度別に学年を5クラスに分け、全職員で計算問題の基礎基本の定着を図った補充学習に取り組んでいる。

### ○ 前期課程と連携した算数の教えあい学習の実施

- ・後期課程生徒がミニティーチャーとして、前期課程の算数学習において、2人の児童に対して、1人の生徒がつく形で勉強を教える取組を行っている。後期課程の生徒の補充的学習だけでなく、教える喜びを感じられる義務教育課程ならではの取り組みを行っている。

## 柱3 評価活動の徹底

### ○ 「思考力・判断力・表現力を問う問題」の作成

- ・定期考査問題の作成において全国学力テスト、県学力調査問題、福岡県の義務教育課が作成した「思考力・判断力・表現力等を問う定期考査問題リスト」を参考にした「理由を書く問題」「説明する問題」の出題と評価を基に授業改善を行っている。

## 5 学習基盤づくり

### ○ 学習コンクールの実施

- ・1学期、2学期に1回ずつ漢字コンクールと英単語コンクールを実施している。鍛ほめの理念を活用した学習コンクールを実施と毎回の振り返りの場の設定を行っている。

### ○ 朝の5分間学習

- ・全校統一した時間で、8時35分から前期課程は10分間、後期課程は5分間、学習の時間を設けている。基本的に読書の時間に活用しているが、定期考査や各学力テスト前は各自補充学習の時間として学力向上に取り組んでいる。

# R 4 教科等部会 活動報告

## 【国語科部会】 校長 井上 法行

- 第1回国語科部会 令和4年6月6日(月)
  - ・組織づくりと年間活動計画の作成
- 公開授業 令和4年11月30日(水)  
【授業者】 中尾 天海 先生  
【単 元】 自らの考え
- 第27回県学校図書館研究大会(兼)筑豊地区学校図書館協議会研修会参加  
講演 「ようこそ、団長の読書教室へ！」  
講師 本のソムリエ・団長 氏

## 【社会科部会】 校長 中川 智晴

- 研究主題 「主体的・対話的で深い学びの実現に向けた社会科学習指導の研究」
- 第1回研修会(6月6日:赤村立赤中学校)  
組織づくり 研修計画作成 活動内容の確認
- 第2回研修会(11月7日:公開授業)  
会 場 添田町立添田中学校  
授業者 土肥 良仁 先生  
単元名 「奈良の都と人々の暮らし」  
歴史的分野

## 【数学科部会】 校長 重藤 公暢

- 第1回部会(6月6日)
  - ・研究主題、研修計画作成、活動内容の確認
  - ・協議「数学科における学習評価について」
- 第2回部会(公開授業:9月29日)
  - ・会 場:福智町立金田義務教育学校
  - ・授業者:平松 怜 先生
  - ・単元名:第2学年  
「箱ひげ図とデータの活用」
- その他 ・公開授業アンケートのまとめ等

## 【理科部会】 校長 久富 靖剛

- 総会 6月6日 (於 糸田中学校)  
組織づくり、研修計画・作成  
部長 栗野 善徳(大任中学校)  
実験講習会担当 宮原 卓(糸田中学校)  
研究員 原田 雅貴(赤池中学校)
- 公開授業9月30日 研修会研究発表会  
(於 川崎中学校)  
授業者:谷川 佑太 先生  
単元名:「化学変化とイオン」

**【保健体育科部会】 校長 安部 博智**

- 第1回 保健体育部会:6月6日(月)
  - ・組織づくりと年間活動計画の作成
  - ・「体力向上プラン」実践交流
- 公開授業:9月27日(火)
  - ・授業者:廣田 翔平(香春思永館)
  - ・単 元:陸上競技(走り幅跳び)
- 第2回 保健体育部会:3月27日(月)
  - ・本年度のまとめと次年度の組織体制

**【英語科部会】 校長 奥 浩幸**

- 組織、年間計画作成等
- 実践研究
- 方城中学校 永富 優子 教諭
- 研修会 日時:令和4年9月7日(水)  
15:00～ 大任中学校にて  
「デジタル教科書の活用と学習評価について」  
講師 福岡県教育センター  
小川指導主事

**【音楽科部会】 校長 河野 康世**

- 総会及び研修会(6月)
  - ・組織作り、年間計画作成、活動内容の確認
  - ・コロナ禍における合唱の取組及び合唱コンクールの実施について交流
- 授業実践(7月、9月)各校
  - ・「曲の構成やパートの役割を理解して合唱しよう」♪翼をください♪
  - ・「思いや意図をもって表現を工夫して合唱しよう」♪ My Own Road ～僕が創る明日～♪ など

**【美術科部会】 校長 中野 純孝**

- 総会・第1回研修会(6月 添田中学校)
  - ・組織づくり、年間計画作成、交流会
- 第8回九州図画工作・美術教育研究大会(福岡大会)への参加(8月)
- 第22回全国中学校総合文化祭福岡大会に出展(8月)
- 第2回研修会(1月 添田中学校)
  - ・年間のまとめと今後の計画、作品交流会
- 第32回福岡県中学校美術展に出展(2月)

**【道徳部会】 校長 中川 智晴**

- 研究主題  
「生きる力を育む学習指導の研究」
- 第1回研修会(6月13日:赤村立赤中学校)  
組織づくり 研修計画作成 活動内容の確認
- 第2回研修会(11月10日:公開授業)  
会 場 金田義務教育学校  
授業者 芳野 友希 先生  
主題名 相手の気持ちを考える「言葉の向こうに」

**【技術・家庭科部会】 校長 春永 功次郎**

- 研究主題 「未来を見据え生活を工夫し創造する資質・能力を育てる技術・家庭科教育」
- 第1回部会(6月6日 赤池中学校)
  - ・組織づくり、年間活動作成
- 授業研修会(9月22日 糸田中学校)
  - ・授業者 石黒 由夏(家庭科)
  - ・題材名 住居の機能と安全な住まい方
- 第25回福岡県中学校技術・家庭科作品展

**【特別活動部会】 校長 春永 功次郎**

- 第1回部会(6月13日 赤池中学校)
  - ・代表、研究員等担当校組織表作成
  - ・年間活動作成
- 第27回福岡県中学校特別活動研究大会
  - ・11月18日 宮若市

**【総合的な学習の時間部会】 校長 久富 靖剛**

- 総会 6月13日(月) 於 糸田中学校  
組織づくり、役割分担確認  
研究員 白石 真由美(赤中学校)  
※ 新型コロナウイルス感染症の為、研究は未実施
- 研究大会などの参加実績
  - ・第19回福岡県中学校総合的な学習の時間研究会「事例報告会及び講演会」参加  
務局会 出席

**【小学校体育科部会】 校長 中瀬 博之**

- 公開授業研 令和4年12月2日(金)  
授業者 久富 光太郎 先生  
香春町立香春思永館 教諭  
単元名 「仲間と協力 思永館選手権  
～記録のその先に」  
領域(内容) 第6学年陸上運動  
(走り幅跳び)
- ・指導助言 薄井 純一 先生  
桂川町立桂川小学校 教頭





# 長期研修等を終えて

## アムステルダム日本人学校派遣を終えて

金田義務教育学校 教頭 柏木つるみ

令和3年度にアムステルダム日本人学校に教頭として派遣されました。初めての在外教育施設派遣は、世界中がコロナ禍にあるときでした。いつもとは違う現地、いつもとは違う教育活動や感染対策を行う中、派遣教員としての生活が始まりました。コロナ禍だったからこそ、平常時よりも日本と海外の考え方が大きく違うことについて、知ることが出来たことが、2つあります。

1つ目は、感染症対策での学校の対応です。児童生徒に風邪症状があったり、登校の判断に困ったりするときの基準が、シンプルでした。簡易検査キッドで陰性であれば、登校可能でした。病院に行かなくても、ネットやスーパーで手に入れられるので、どの家庭でも常備していました。更に、学習保障のため、オンライン授業が日常的に行われていたので、担任が不在でも授業が成立していたことです。

2つ目は、義務教育機関における保護者の責任が明確だったことです。オランダでは、理由無き欠席、無届けなどは、行政の厳しい指導が保護者に入ります。場合によっては、多額の罰金を払わなければならないケースもあります。それほど、義務教育の責任が保護者にあるということです。いじめや学校に馴染めず学校に行けない子どもたちには、他校を薦めることもしており、学校に行くためのあらゆる選択肢を提案されます。

また、二年間の派遣期間に図書館を充実させることを目標に実践してきました。海外では、日本語の書籍が手に入りにくいので、図書館環境を充実させたいと考えました。現地のネイティブスピーカーの教員（英語）がいつも言っていたのは、母国語がしっかり身につけていない子は、4技能がバランス良く伸びないということでした。海外にいて英語を流暢に話せても、読解力や作文力が低いことを指摘されていました。これらのことから、蔵書の充実、図書システムの導入、図書室の整備などPTA役員を中心にボランティアを募り、整備してきました。

二年間という短い期間でしたが、外から日本を見て、改めて日本の良さに気づいたり、取り入れたい海外のシステムを知ったりと、多くの学びを得ることが出来ました。また、小中学校の教員と一緒に教育活動を行う現場に携わることで、中学校の動きや年間の教育活動を一緒に体験できたことは、大きな収穫でした。この経験を今後の教育実践に生かしていきたいと思えます。

最後に、このような貴重な体験の機会を与えて下さった関係各位の皆様  
に感謝申し上げます。



## 長期研修を終えて

福智町立方城中学校 教諭 森 百合奈

福岡県教育センターの特別支援教育班において、長期派遣研修員として一年間研修させていただきました。主題研修では、相手に話しかけることに不安のある生徒Aを対象に、音楽科の授業において友達と創作表現を創意工夫することができることを目指し、安心して活動するための環境設定を行いました。具体的には、見通しをもたせるため手順などを視覚的に提示すること、安心して交流するために意図的なペアやグループの編成を行ったりすること、自分の意見を伝える手段としてICTを活用することなどユニバーサルデザインの視点を取り入れた手立てを行いました。主題研修を通して、対象生徒Aを含め、全ての生徒が分かり安心して取り組むことができる授業のためには、ユニバーサルデザインの視点を取り入れた授業づくりが有効であると学ぶことができました。

また、授業の中でどのような手立てを行うかを考える際には、生徒の実態把握を多面的・多角的に行うために、一人で実態把握をするのではなく、複数の教員で実態把握にあたるのが重要であると改めて実感しました。

主題研修以外の研修においても、ミドルリーダーについての研修や特別支援教育の専門性を高めるための研修などの受講を通して、新たな知識を得たりミドルリーダーとしての自覚をもったりすることに繋がりました。このような研修の機会を与えてくださった皆様、ご指導して下さった皆様に、心より深く感謝申し上げます。今後も、生徒のために学び続ける姿勢を大事にし、自己研鑽に励み、在籍校や地域に還元していきたいと思えます。ありがとうございました。



# 長期研修等を終えて

## 長期研修を終えて

糸田町立糸田中学校 教諭 加藤 睦都

昨年度、福岡教育大学附属小倉中学校において、外国語（英語）科の長期派遣研修員として、1年間、研修させていただきました。私にとってこの一年間は、「新しいことへの気づき」の年となりました。赴任して最初に気づいたのは自分の無力さです。これまで、仮説検証型の研究の経験がなく、研修計画書や実践Ⅰの指導案を書くのにも苦労した事を覚えています。そして、さらに教科について深く考えていく中で、これまでの私は、「教科の本質」や「見方・考え方」など、知っていて当然のことを、知らずに授業を行っていたことに気がつくと同時に、自分の無力さにネガティブになることもありました。

しかし、そのような苦しい実践の日々でも、「嬉しい気づき」もありました。それは、6月を過ぎたあたりから生徒との関係が徐々に深まり、そのおかげで、日々の授業を楽しく行うことができるようになったことです。生徒との関係を築いた後からは、実践Ⅲも最終報告会の授業も楽しく、安心して行えました。これがよく言われる「学校は違えど、本質は変わらない」という言葉の意味なのだ、と、教員人生で初めて実感した時でした。

これまでの常識が通用しない場所で己の無力さを痛感した一方、子どもとの絆の大切さを教えてくれたこの研修で「英語科の本質」、「教育の本質」について考えていくことは、教師として貴重な学びの経験となりました。しかし、この研修で何度も耳にした「始まれば終わる、終われば始まる」という言葉を胸に刻み、この研修で得たことを糧にし、これから更なる研鑽を積み重ね、筑豊の子どもの輝きのために尽力したいと思います。

折に触れ、貴重なアドバイスや温かい言葉で支えてくださった全ての方々へ心から感謝申し上げます。1年間ありがとうございました。



## 令和4年度教職員中央研修（第3回事務職員研修）を終えて

福智町立赤池中学校 企画主査 古野 恵美

令和4年度は2年ぶりの集合型の中央研修が行われました。参加する前に、本校の学校教育目標や課題、校長の目指す学校経営について学び、期待される事務職員の役割や共同学校事務室の役割を知ることからが研修の始まりでした。

全国から集まった約60名の事務職員と過ごした5日間。教職員支援機構の荒瀬理事長をはじめ、あらゆるマネジメントの研究者である先生方の講話から、子どもも大人も自立した学習者として生涯にわたり学び続けること、全ての評価は応援であること、学校は子どもたちが多様な大人に出会う場であり、学びの循環がある場であることなど、教師の満足度と子どもの幸福度の両方が満たされた理想的な学校を想像することができました。マネジメントの手法を活かした学校改善について学び、教職員支援機構のサポートやユニットの仲間たちから多くの気づきを得て、「どうすれば学校はもっと良くなるのか？学校事務としての強みを活かした学校改善の方法は？」このような課題を、現場を離れ、黙々と研修に取り組めたことは、わたしにとって大きな財産となりました。また永岡文部科学大臣が視察に訪れ、激励をいただいたことも貴重な思い出です。今回出会えた60名の仲間たちや中央研修に参加された先輩方とは、研修後も地域を越えて交流が続き、いつも励まされています。

このような機会を得て、これからも事務職員としての担任事項を守り、誠実な対応を心がけながら、新たな強みとなることを探していこうと思っています。本校では事務職員がハラスメントの相談窓口を担い、不祥事防止を推進していく一人として、「風通しの良い職場づくり」を目指しています。今後も自己研鑽に励み、事務職員研修を通してこの経験を伝えたいと思います。

最後に、中央研修に参加するにあたり、筑豊教育事務所や福智町教育委員会をはじめ、支えてくださった全ての皆様に感謝します。ありがとうございました。



# 令和4年度教育論文応募者・入選者紹介

## ふくおか教育論文

添田町立真木小学校 主幹教諭（現教頭） 宮村 歩  
『学校のチーム化を目指す組織運営の在り方』

優良賞

- 令和4年度福岡県とびうめ教育表彰式（令和4年12月26日（月）県庁）
- 令和4年度「ふくおか教育論文」表彰式・発表会（令和5年2月13日（月）筑豊教育事務所）

## 田川郡教育研究所教育論文

川崎町立川崎東小学校 教諭 柳井 文陽 （一般の部） 特別活動 **佳作賞**  
『いじめ問題の起きにくい学級づくりにつながる学級活動(1)についての一考察』

福智町立弁城小学校 教諭 坂本 彬行 （一般の部） 社会科  
『自ら問いを持ち、解決する児童を育てる第5学年社会科学学習指導』

糸田町立糸田小学校 教諭 吉田 賢治 （一般の部） 算数  
『自ら数学的活動に向かう第4学年算数科学習』

赤村立赤小学校 栄養教諭 藤原 果穂 （若年の部） 食育 **佳作賞**  
『安心・安全な給食提供を目指して』

赤村立赤小学校 養護教諭 富安 未来 （若年の部） 保健室経営  
『基本的生活習慣の定着を図り自らの健康を構築できる児童の育成』

川崎町立真崎小学校 教諭 野村 由季 （若年の部） 算数  
『自ら考え、表現し合う子どもを育成する算数科学習指導』

添田町立添田小学校 教諭 田中 雅人 （若年の部） 算数  
『主体的に学ぶ子どもを育成する第6学年算数科学習指導』

添田町立添田小学校 教諭 篠原 遼 （若年の部） 算数  
『主体的に学ぶ子どもを育成する第4学年算数科学習指導』

※表彰につきましては、田川郡教育研究所総会の折に行いました。  
（令和5年5月29日（月）赤村住民センター）

## 《令和5年度》

### 教育実践研究に関する研修会参加者

筑豊地区教育研究所等連絡協議会主催

城野 晴菜	（大任小）	「算数」
税所 悠大	（糸田小）	「国語」
遠藤 智之	（赤池中）	「数学」
原田 雅貴	（方城中）	「理科」

### 授業作り基礎講座参加者

筑豊地区教育研究所等連絡協議会後援

辻村 宗暉（赤小）	篠原 遼（添田小）
氷室 涼羽（添田中）	藤川 梨紗（川崎中）
山田 千尋（川崎中）	荒瀬 晴貴（糸田小）
黒田 浩幸（糸田中）	斎藤 桃花（糸田中）
占部 淳子（市場小）	岩村 昌美（赤池中）
佐藤 千穂（方城中）	

## 令和5年度 教育実践発表会等についてのお知らせ

### ◆筑豊地区教育研究所連絡協議会教育実践発表会

○実践発表者 坂本 彬行 (福智町立弁城小学校)

主題『自ら問いをもち、解決する児童を育てる第5学年社会科学習指導』

※8月3日(木)13時30分～ (於)田川市文化センター・青少年ホール会議室

### ◆福岡県教育研究所連盟研究発表協議会

○実践報告者 加藤 睦都 (糸田町立糸田中学校)

主題『英語でのやり取りを継続・発展できる力を養う外国語(英語)科指導法の研究』

※11月14日(火)13時～ (於)福岡県教育センター

## 食育だより

添田町立添田小学校 栄養教諭 井手口裕子

### 学校給食の1食分の量の基準は？

給食の摂取基準は、小学校低・中・高学年、中学校ごとに、文部科学省から基準が示されています。ただし、あくまでも全国平均を示したもので、学校や学級ごとに調整しています。その場合、子どもたちの身体測定の結果から栄養量を算出していきます。摂取エネルギーを例にとると、身長・体重・身体活動量をもとに、1日の推定必要エネルギー量(kca)を求め、給食でその1/3がとれるようにしています。ちなみにふつうに生活している大人が必要なエネルギー量は、1食あたり男性770～900 kcal 女性570～680 kcalです。学校給食基準では、低学年530 kcal 中学年650 kcal 高学年780 kcal中学校 830kcalなので、小学校中学年以上の子どものエネルギー必要量は、大人と変わりません。

子どもたちの栄養量が不足しないよう、給食の指導をお願いします。



## 養護だより

川崎町立川崎東小学校 養護教諭 平野美季

新型コロナウイルス感染症が5類感染症に移行したことに伴い、学校での対応も変わってきている中、田川郡学校保健会養護部会においても昨年度よりも活動していく予定です。例年行われている年2回の研修会については、実施する方向で考えており、第1回研修会を2学期に開催する予定です。視察については、まだ新型コロナウイルス感染症の影響がゼロではない状況を踏まえ、今年度も中止することになりました。新型コロナウイルス感染症がもたらしたここ数年の出来事は、子どもたちへ様々な影響を今なお及ぼし続けています。私たち養護教諭は本年度も田川郡を3つの部会に分け、部会毎のテーマを設定し、定期的な研修や意見交流を行い、養護教諭の資質の向上に努めると共に、子どもたちの健康課題への取り組みに励んでいきたいと思っております。



## 田川郡教育研究所

[所在地] 〒825-0002  
田川市伊田松原通り 3292-2 田川総合庁舎 筑豊教育事務所田川駐在在  
[TEL・FAX] 0947-47-1081  
[E-mail] tagawa-lab@fukuoka.email.ne.jp  
[URL] http://tagawa-lab.sakura.ne.jp/

所長	長野 修	副所長	春永功次郎 (赤池中学校 校長)
副所長	長畑 理恵 (落合小学校 校長)	幹事	〃
書記	〃	主任指導員	森 孝太郎 (香春思永館 教頭)
主任指導員	平田 隆司 (赤小学校 教頭)	指導員	奥 拓也 (真崎小学校 主幹教諭)
指導員	稲富 哲市 (上野小学校 主幹教諭)		
指導員	石打 史尚 (方城中学校 主幹教諭)		